

# Economic Indicators

発表日: 2019年7月30日(火)

## 景気動向指数(2019年6月)の予測

～CI一致指数が急低下。先行き再度の基調判断下方修正リスクも～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)

### CI一致指数が急低下

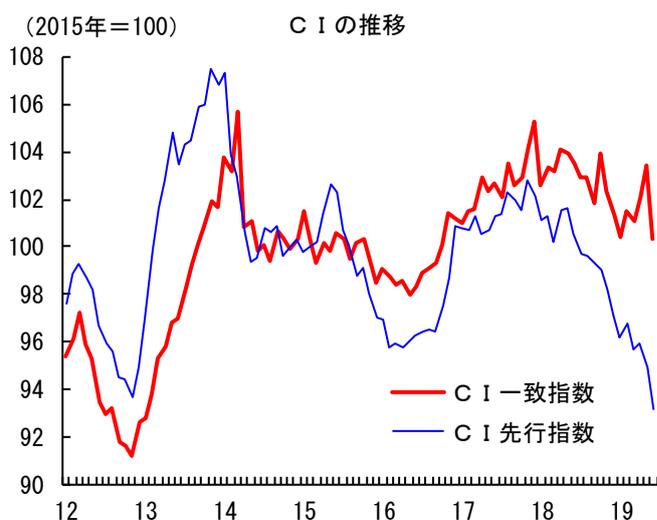
内閣府から8月6日に公表される2019年6月の景気動向指数では、CI一致指数を前月差▲3.0ポイントと予想する。内訳では、鉱工業生産指数や耐久消費財出荷指数、生産財出荷指数、資本財出荷指数などによる押し下げが大きい。本日公表された鉱工業指数が弱い結果となったことが反映される形である。

CI一致指数は19年1月の100.4を底に5月には103.4まで上昇していたが、6月の大幅な落ち込みにより、それまでの上昇分を一気に吐き出すことになるだろう。

### 基調判断は「下げ止まり」で現状維持も、先行きは再度の下方修正リスクあり

内閣府によるCI一致指数の基調判断は「下げ止まり」が予想される。5月分において、それまでの「悪化」から「下げ止まり」に上方修正されたが、6月もその判断が維持される見込みだ。今回の急低下により3ヶ月後方移動平均前月差は3ヶ月ぶりにマイナスに転じるが、「悪化」への下方修正の条件である「原則として3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が下降」は満たさないためだ。

ただ、その先は怪しい。6月の指数水準が急低下したことに加え、比較対象となる5月の水準が高いこともあり、目先の3ヶ月後方移動平均前月差の値は低く出易い状態になる。仮に7月の戻りが弱い上、8月が前月差でマイナスになるようであれば、「悪化」への下方修正の条件を満たしてしまうだろう。上方修正されたばかりの基調判断だが、早くも再度の下方修正リスクが出てきたようだ。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2019年6月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。